

令和元年8月30日

会員各位

協会だよりー0009(9月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

2・【トピックス】:

- 第241回月例会（触媒工業協会共催講演・懇親会）参加者確定
日 程：9月9日（月）16：00－19：00
場 所：如水会館 富士の間
演 題：「脱炭素社会に向けた国際エネルギー状況と展望」
講 師：田中伸男氏（笹川平和財団会長、元IEA事務局長）
参加会社：29社（当協会） 35名
- 第3回運営委員会の開催
日 程：9月20日（金）16：00-17：00
場 所：堺化学工業㈱東京支店 会議室



- 一. 協会よりのお知らせ
- 二. 「トピックス」
- 三. 「実施済事項」
- 四. 「予定事項」
- 五. 事務局より（9月度の予定）
- 六. 「雑学・武蔵国から 記 小林尚道氏」

後列左から：伊藤事務局長、尾沼広報委員長、永井副会長、吉田副会長、水澤
運営委員長、小川技術委員長、渡邊監事、小松技術委員長、渡辺運営委員長
前列左から：遠藤副会長、一瀬会長、安田会長、林副会長、角田専務理事
青字：触媒工業協会 黒字：当協会

3. 【実施済事項】

- ① 協会だより0008（8月号）をHPに更新・各会員並びにOB各位に配信
- ② 令和元年度版の会員名簿作成
- ③ 触媒工業協会との懇親会実施
- ④ 第241回月例会（共催講演会）の参加者募集・締切
- ⑤ 第242回月例会一泊研修会の参加者&コース選択のアンケート整理
- ⑥ 第242回月例会の案内状送付
- ⑦ 第39回JSCRA会開催案内状送付
- ⑧ 【会員専用HPの更新】
 - 8月度の経費明細
 - 第241回月例会（共催講演会）参加者明細公開
 - 触媒工業協会との懇親会の写真公開
 - 第242回月例会（一泊研修会）の参加者&コース選択のアンケート結果公開
 - 令和元年度版の会員名簿PDF版の公開
 - 第242回月例会（一泊研修会）のご案内PDF
 - 第39回JSCRA会案内・詳細PDF

4. 【予定事項】

- ① 協会だより0010（10月号）の発行
- ② 第241回月例会（共催講演会）の実施・報告
- ③ 第242回月例会の参加者からの入金確認
- ④ 第242回月例会の宿泊代の振込
- ⑤ 第3回運営委員会（9月20日）の開催（堺化学工業東京支店会議室）
- ⑥ 第241回月例会（共催講演会）への参加代金を触媒工業協会へ振込

5. 事務局（9月度の出勤予定）

出勤予定●：9日間

日	月	火	水	木	金	土
9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7
		●		●		
9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/7
	共催講演会			●		
9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21
		●			運営委員会	
9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28
		●		●		
9/29	9/30					
	●					

（文責：専務理事）

6. 【雑学】武蔵国府跡から国分寺・国分尼寺跡、府中市・国分寺市を訪ねる（1）

武蔵国は今の東京都と埼玉県・神奈川県の一部を合わせた国で、その国府があったのは府中市である。JR 府中本町駅（南武線と武蔵野線の接点駅）に集合して、府中本町駅から目の前の 50m と言って良い駅前にある武蔵国府・国司館跡・徳川家康の府中御殿跡を先ず訪問した。奈良時代の構築物跡地（礎石の跡に柱を新たに構築）ばかりだが、数箇所の歴史館を含め訪れた本日の簡単な行程は次のとおりである。

府中本町駅発…武蔵国司館跡・家康別邸跡（VR 体験）…大国魂神社…武蔵国衙跡…ふるさと府中歴史館…馬場大門ケヤキ並木…甲州街道・府中宿・高札場 …府中本町駅（武蔵野線）⇒ 西国分寺駅…東山道武蔵路跡…国分寺公園（昼食）…真姿の池…お鷹の道湧水園…国分寺資料館…現国分寺…薬師堂…国分寺跡…国分尼寺跡…西国分寺駅（解散）

《武蔵国司館跡・家康別邸跡（VR 体験）》

府中本町駅は武蔵野線の発着駅で、永年ゴルフなど埼玉方面へ出かける時の乗換駅として利用しているが、改札より出たのは今回始めてだ。早速事務所に入り VR の装置を借りて見学に出発だ。番号表示の場所に装置を向けると動画が始まる。早速 VR を活用してい



武蔵国国府・国司館の屋外模型

る参加の仲間たち、礎石の上に建てられた柱はまるで子供たちの遊び場のようだ。

イトーヨーカ堂が府中本町駅隣接地に出店すべく、基礎工事を始めようとしたら礎石が見つかり史跡調査が始まって国司館の跡、且つ三つ葉葵の瓦も見つかり家康府中屋敷跡であることが判明、イトーヨーカ堂は出店を断念したと言われている。



国司館跡を出て府中街道を渡ると神社の鳥居、もう大国魂神社が目の前に現われる。

《**大国魂神社**》東京都府中市宮町 3-1

大国魂神社の創立は景行天皇 41 年（111）約 1900 年前と言われ、大化改新によって武蔵国府が、この地に置かれた。国司が武蔵国の管内神社六社の祭典を行う便宜上、一ヶ所に集めたため六所宮とも言われる。六神とは以下の大神をいう。

一ノ宮 小野大神…東京都多摩市一ノ宮 1-18-8

二ノ宮 小河大神…東京都あきる野市二宮 2252

三ノ宮 氷川大神…埼玉県さいたま市大宮区高鼻町 1-407

四ノ宮 秩父大神…埼玉県秩父市番場町 1-3

五ノ宮 金佐奈大神…埼玉県児玉郡神川町 750

六ノ宮 杉山大神…神奈川県横浜市緑区西八朔 208



府中街道と鳥居



大国魂神社本殿

《**武蔵国衙跡**》府中市宮町



場所はほぼ大国魂神社の境内の中、朱塗りの柱が建てられている。奈良時代から平安時代の約 400 年間、武蔵国を治めた役所の所在地を国府といい、その役所群が置かれていた場所を国衙という。朱塗りの柱は当時の国衙の中樞建物の柱の位置を示しているそうだ。次いで、ふるさと府中歴史館へ入り、歴史の勉強時間となる。

《**馬場大門ケヤキ並木**》府中市宮町

京王線府中駅より大国魂神社まで 500m ほど続くケヤキ並木は、源頼義・源義家父子が奥州平定の「前九年の役」の途次、大国魂神社に戦勝を祈願して、神社にケヤキの苗木を 1000 本寄進したことに始まるとされている。

右の写真は源義家公の銅像である。

町田市矢部の箭幹八幡宮にも奥州平定の帰路、源義家が病氣平癒を祈願して回復し箭幹を奉納したと言われている。



《府中宿・高札場》 府中市西宮町



江戸時代に、禁制・法令等を伝えるために掲げた板札を高札という。高札は交通の多い場所に掲げられ、このような場所は高札場と呼ばれる。府中高札場は、甲州街道、川越街道及び相州街道が交差する府中宿の中心を占める場所であった。札掛は屋根があり、ここに六枚くらの高札が掛けられていたといわれる。現在は旧甲州街道と府中街道の交差点と言ったほうが判りやすい。

府中本町駅まで戻り電車で西国分寺駅へと向う。西国分寺駅南口を出て府中街道を横断し、日本芸術高等学園ビル方面へ歩む。

《東山道武蔵路跡》 国分寺市泉町2丁目他

東山道は、駅制に基づいて7世紀後半から8世紀前半にかけて整備された都と地方の国府を結ぶ幹線道路（七道）の一つである。七道とは東海道、東山道、北陸道、山陽道、山陰道、南海道、西海道の七つを言う。東山道武蔵路は、東山道の枝道（支路）の一つで、上野国から武蔵国府へと南下する約12mの直線道路である。泉町二丁目では発掘終了後、東山道武蔵路遺構再生展示施設を作り、跡は保存の為、埋め戻してアスファルトで舗装されている。



幅50m程の内、車道は10m程度で、後は40m幅の歩道が続いている。雨の予報が快晴となり昼食は都立武蔵国分寺公園で。この公園はとても広い公園で北半分の場所に直径



200mの円形芝生がある。通常円形の場所は無線電波塔などの跡地なのだが、ここは鉄道中央学園の跡地だそう。円形広場はSLの動輪をイメージして作られたようだ。昼食後、真姿の池湧水群へ向う。

《真姿の池》 国分寺市西元町1丁目

絶世の美女・玉造小町が重い病気になったとき、国分寺の薬師如来に祈ると、一人の童子が現われ、この池の水で体を洗うと良いといった。小町は言うとおりに体を洗うとたちまち病気は治り、元の美しい姿に戻ったという。それ以後「真姿の池」と言うようになった。国分寺崖線（はけ）より湧き出る泉は野川の源流となっている。



《お鷹の道湧水園・国分寺資料館》国分寺市西元町 1-13-10

園の入口にある旧本多家住宅長屋門は、代々国分寺村の名主家表門と当代当主の隠居所を兼ねて江戸時代末期に建てられたという。入場代 100 円を払い入園する。



長屋門の右には

武蔵国分寺七重塔（実際には 60m あったそうだが）10 分の 1 のスケール（6m）で復元されている。国分寺資料館に入り奈良時代の勉強となる。今回は足も頭も痛くなるウォーキングだ。

《現国分寺・国分寺楼門》国分寺市西元町 1-13

現国分寺は医王山景勝院国分寺といい、真言宗豊山派の寺院である。「分倍河原の戦い」で武蔵国分寺が焼失したため、新田義貞が寄進し薬師堂が再建されたという。この薬師堂を徳川幕府も寺に領地を与え保護し本堂も再建された。国分寺と名前は同じだが奈良・平安時代の国分寺ではありません。



この楼門は、米津出羽守田盛（通称内蔵助）の元菩提寺として建立された前沢村・米津寺（東久留米市）の楼門を明治 28 年に移築したものである。

※米津出羽守の出身地は、三河国碧海郡米津村で田盛の時に久留米村前沢を知行地とする。石高は、一万五千石、大坂定番を勤めた。引続き、国分寺跡、国分尼寺跡へと訪ねるが、次報へ譲ることにする。

（記：小林尚道）